

華やかに市民川柳祭、万燈会

鶴彬通信

はばたき

第22号

2015年10月20日

鶴彬を顕彰する会

もくじ

②	面	市民川柳祭、万燈会、碑前祭などの写真集
③	～⑧面	碑前祭、市民川柳入賞作品、鶴彬大賞など
⑨	～⑮面	宇部功氏講演「鶴彬から学ぶ明日への道」
⑯	～⑲面	「鶴彬と平和について」特別授業の感想文
⑳	～㉔面	連載「戦争やテロから問われること」Ⅱ

最優秀句

戦争は友だちなくす戦いだ	高松小6	金子 竜大
枯らさずに友情の花大切に	高松中3	中村日名子
鶴の地で世界平和を発信す	高松	寺内 徹乗

8月16日、第4回高松歴史街道フェスティバル「かほく市民川柳祭」が開催されました。8月14日から、かほく市高松の産業文化センターで開催された写真展・絵画展には約70名の見学者がありました。また、かほく市高松・中町会館でのイベントには、好天に恵まれ約50名が参加。万燈会には200名が訪れました。



小学生の部で入賞した皆さん



中学生の部で入賞した皆さん



一般の部で入賞した皆さん

中町会館周辺の旧能登街道沿いには、今年初めて100本ののぼり旗が立てられ雰囲気盛り上げました。会館前の広場には、市民川柳祭の入賞作品が小学生の部、中学生の部、一般の部の順に行灯で掲げられました。中町会館では午後3時より、吉田莉芭さん（金沢）の司会のもと、かほく市の琉球舞鼓会による太鼓と琉球舞踊のオープニング。続いて、第3回かほく市民川柳祭の入選作品の発表および表彰が行われ、高松吟詠会による優秀句の吟詠が行われました。

午後4時半より同会館にて、かほく市「はまなす民謡会」によるアトラクションが披露されました。大きな大会に優勝・入賞したキャリアのある3人の少女たちの民謡は特に圧巻でした。

午後6時より中町会館横の額神社で、来場者たちが、戦没者や治安維持法犠牲者を追悼して九千本の万燈に点火。暗くなるころにはワンカップのろうそくの明かりが煌々と輝き、子ども連れの家族などが三々五々、散策していました。「あれは何の絵や？ 鳥？ ライオン？」「何て書いてあるんや？ ツルアキラ？ 『平和』かな？」「あそこにロールケーキみたいなのがあるよ」と会話もはずみ、記念撮影のグループもいて、賑わいを見せていました。



灯がともされた入選作品に見入る家族連れ



高々と掲げられた市民川柳祭の入選作品



ワンカップの灯で描かれたアート風の作品も



境内いっばいに繰り広げられた万燈会に訪れた親子ら



句碑の背後にズラリ掲げられた鶴彬作品の行灯



句碑の前で鶴彬大賞の作品を詠みあげる城戸寿子さん

秋晴れの下、句碑に献花

鶴彬をたたえる集い 碑前祭

鶴彬命日の9月14日の前日、13日(日)

に、第17回鶴彬をたたえる集いの碑前祭が行われました。爽やかな秋晴れのもと、かほく市高松の歴史公園に約40人が集まり、軍国主義下、命をかけて反戦を貫いた鶴彬をしのびました。句碑の背後には鶴彬の代表的な句が数十句掲げられ秋風に揺れていました。

午後2時、細川律子さんの司会のもと、鶴彬を顕彰する会の長谷久人会長があいさつ、続いて鶴彬の甥の喜多義教さんが親族を代表してあいさつしました。

同会幹事の板坂洋介さんから、油野和一郎かほく市長のメッセージが読み上げられ、大阪のあかつき川柳会・鶴彬碑前祭実行委員会、岩佐ダン吉さん、東京鶴彬顕彰会世話人、植竹団扇さん、盛岡市の鶴彬・井上剣花坊祭実行委員長、佐藤岳俊さんから寄せられたメッセージが披露されました。

続いて、鶴彬の姪の城戸寿子さんから第20回鶴彬川柳大賞と優秀賞の作品が詠みあげられ、高松吟詠会による句碑の「枯れ芝よ団結をして春を待つ」の献吟があり、参加者一同、鶴彬の句碑に花をたむけました。

この後、歴史公園内の南町会館で、5月23日に石川テレビで放送されたドキュメンタリー番組「川柳人鶴彬」今に伝わるメッセージ」の上映会が行われました。

さらに8月28日に、北陸朝日テレビのH A

B週刊Jチャンネルで放送された「十七文字に込めた平和への決意」を鑑賞しました。これは宇部功先生による高松小学校での特別授業や、第3回市民川柳祭および万燈会が収録されたものです。

平和教育の大切さ痛感

親族代表 喜多義教さんあいさつ

本日、鶴彬と喜多一二の碑にお参りいただき、誠にありがとうございます。親族を代表して一言ごあいさつ申し上げます。

鶴彬が東京で獄死して77年になります。日中戦争のさなか、太平洋戦争の始まる3年前でした。悲惨な戦争を川柳に詠み、必死に抵抗した鶴彬でしたが、29歳という若さで、ベッドにくくりつけられたまま絶命しました。

戦争で殺したり殺されたりすることの無い平和だった戦後70年。今、安保法制というキナ臭い法案が熱気を帯びて論議され、国会で最終局面を迎えようとしています。アメリカの片棒を担いで戦争に参加する危険性、武器輸出の緩和で火ダネをまく恐れ、など鶴彬の生きた時代再び、つまり新たな戦前がくる予感があります。

こうした危なっかしい世相の中、私たちは鶴彬の精神を守り、拓げようと1年前に鶴彬資料館を開設して、全国へ情報発信する基地としてきました。また今年7月には岩手県から、長年鶴彬と川柳の教育を続けてこられた

元校長の宇部先生をお招きして、かほく市内2つの小学校で特別授業「鶴彬と平和について考える」と、一般市民向けの講演をしていただきました。授業を受けた6年生からはたくさんの感想文が寄せられ、平和のために命をかけた人が高松にいたと初めて知ったこと、戦争の悲惨さがよく分かったことなどが綴られていました。

鶴彬を題材にした平和教育の大切さを、いま、改めて思いました。どうか参列者の皆さま、鶴彬の思い、鶴彬精神をこれからも生かしていつていただきたいと切にお願い申し上げます。碑前祭の挨拶といたします。本日はありがとうございます。

メッセージ

鶴彬の業績から平和を考えよう

かほく市長 油野和一郎

第四回「高松歴史街道フェスティバル」および第十七回「鶴彬をたたえる集い」が開催されるにあたり、かほく市を代表してメッセージをお送りいたします。

地元高松出身の川柳作家、鶴彬の業績を広めることを目的に始まったこの「高松街道フェスティバル」も今年でめでたく四回目を迎えられ、本事業の継続にご尽力された皆様のご努力に心から敬意を表します。

皆様もご存知のとおり、わが国にとって本年は戦後七十年の節目にあたります。先の大戦では、二百万人以上の軍関係者、五十万人

とも百万人ともいわれる民間人の尊い命が犠牲になり、広島・長崎への原爆投下をはじめ、空襲によって国内の主要な都市のほとんどが破壊し尽くされるといふ、まことに筆舌に尽くしがたい惨状で終戦を迎えました。戦後わが国は戦禍のダメージを乗り越えて史上稀に見る目覚ましい発展を遂げ、世界有数の経済大国となりました。しかし、今日の発展が先人たちの尊い犠牲と不断の努力の上に成り立っていることを、我々は絶対に忘れてはなりません。

このような節目の年に、鶴彬の業績とその精神を振り返り、未来へ向けて平和のあり方を考える本日のつどいは、大変大きな意味を持つものであり、開催にご尽力された実行委員会の皆様のご努力には大いに敬意を表するところでございます。

最後になりましたが、本日お集まりの皆様のご健康とご多幸をご祈念申し上げますとともに、本日の集いのご盛会を心よりご期待申し上げます。私のメッセージといたします。

平成二十七年九月十三日

反戦不屈の川柳人を世界へ

大阪・あかつき川柳会

鶴彬碑前祭実行委員会 岩佐ダン吉

「鶴彬資料室」の開設、「第3回かほく市民川柳祭」など鶴彬を顕彰する先駆的な運動に敬意を表します。

私もあかつき川柳会を中心に鶴彬生誕105年：「今、問う・この時代にこの一句

を」「誌上川柳大会」を開催中です。

これには全国46都道府県、697人から6200余句の川柳が集まり10月末には『あおぞら』Ⅲ号の発行を予定しています。

そして今日は国有地・大阪城公園にある鶴彬顕彰碑前で第8回「碑前祭」を挙行政致します。

石川での「鶴彬をたたえる集い」のご盛会を祝し、ともに反戦不屈の川柳人・鶴彬を世界へ――奮闘しましょう。

2015年9月14日

反戦平和の叫びを隅々まで

東京鶴彬顕彰会世話人 植竹 団扇

安倍内閣は圧倒的な民意に叛き、今まさに稀代の悪法を強行しようとしています。

鶴彬の「反戦平和の叫び」を今こそ国の隅々まで広げ、なんとしても悪法を阻止しなくてはならないと思います。

その意味からも、本日の碑前祭に際し熱烈な連帯のメールを送るものです。

2015年9月14日

平和主義作家・鶴彬に学ぼう

第39回鶴彬・井上剣花坊祭

実行委員長 佐藤 岳俊

「第17回鶴彬をたたえる集い」に参加された皆さん、大変ご苦勞様です。現在の安倍政権は原発の再稼働、そして戦争法案と言われる「安保法」を強行に押し進め、又、沖繩に基地を造り、戦争への道を辿ろうとしています。

す。憲法違反の「戦争法案」は国民の83%の人々が政府の説明が不十分としています。又、この法案に反対する人々が国会周辺で毎日デモをくり返しています。

鶴彬は戦前の暗黒な軍国主義日本の中で、川柳を武器として闘った正しい川柳作家であり、平和主義の作家です。

鶴彬の川柳作品とその行動に学び、皆様と共に、団結して前進して行きましょう。

二〇一五年九月十三日

第4回歴史街道フェスタ

総括と今後の課題

鶴彬を顕彰する会幹事 遠田 勝良

戦後七〇年を迎えた今年のフェスタは内外から大きな注目を集めた。特に安倍政権が「戦後レジームからの脱却」と称し、あるうことか「戦争法案」を国会に上程、数に物をいわせる強行採決のシナリオを実行しようとしていた最中だったこともある。戦前回帰の悪夢を思わせるこの法案は、鶴彬の生きた時代への懸念と相俟って、反戦を貫き獄死した鶴彬に、各方面から取材が相次いだ。主なものは、四月に共同通信社が「反戦川柳人鶴彬」の企画記事を全国の新聞社に配信。五月には石川テレビがドキュメンタリー「川柳人鶴彬―今に伝わるメッセージ」を放映。戦後七〇年の節目として、戦争と平和について問題を投げかけたのは特筆すべきことであった。

こうした状況下での第四回フェスタは、昨

年までのフェスタと一味違ったものにすべく、「かほく市民川柳祭」を前面に押し出した。それは鶴彬の心と川柳を文化として市民の手に取り戻したいという強い願いからであった。

その一番の取り組みが、岩手県の宇部功さんを当地にお招きして、先生の授業と講演を実現することであった。七月それが実現した。高松小、大海小の両校の授業と浄専寺での講演の詳細は「はばたき」二二号、二二号に記載されている。顕彰会では、この取り組みを今年だけに終わらせず、引き続き七塚、宇ノ気の小学校四校、又一般向けには各地域での川柳教室と言った方向性で考えている。せっかくながら足掛かりが出来たのに、止める理由はないからである。

フェスタ当日、「かほく市民川柳祭」のノボリ旗が街道にズラツと立てられた。実は四、五日前に有志で立てたものである。「川柳祭」を盛り上げる為に、急遽一〇〇本用意。「目立ってなかなかない！」と評判も上々だった。尚「川柳祭」の費用は公益財団法人いしかわ県民文化振興基金の助成を得て実現したもの。いいタイミングで助成金を利用出来たと思う。顕彰会の仲間の英智と結束の成果である。

ところでフェスタに問題はなかったのだろうか。色々な声を列挙してみたい。

①日程 旧盆八月一五日前後は役員もボランティアも動きづらい。見に来る人も予想していたより少なかった。

②アトラクション 今年の若い子の民謡は良かったが、会館にクーラーがないので長時間

聞いているのは辛い。

③万燈会 一万個近いカップの配列、点火、回収には人員不足。もっと組織的に出来ないか。それに川柳の表彰式、アトラクションが万燈会にうまく繋がっていないのでは。

④写真展、絵画展 テーマを決めて公募したらどうか。フェスタの主旨と合わない面がある。

⑤川柳公募 一般からの応募が少ない。チラシの見直しが必要では。働きかけの仕方も再検討の余地あり。

⑥その他 「歴史街道と鶴彬の句碑めぐり」(仮称)のウォーキングコースをつくらどうか。資料室が生きてくるのでは。一月に総会があるので、これらの課題については事務局で試案を作成し、議題にした

い。

大賞に榎村さん (茨木県)

◇第20回鶴彬川柳大賞

【大賞】 七色の舌で平和を偽装する

茨城県ひたちなか市 榎村 日華

【優秀賞】 九条を骨抜きにする多数決

石川県小松市 妻木 義山

【同】 税務署に弱音を吐いて励まされ

石川県金沢市 清左 とみ

【佳作】 平和ってなんて明るい闇だろう

埼玉県上尾市 鈴木 良二

【同】 紙くずに使い捨てるな人間だ

岐阜県岐阜市 後藤 順

【同】 柳句吐く胸に滾っているマグマ

宮崎県宮崎市 棧 舜吉

第3回かほく市民川柳入賞作品

◇小学生の部 (課題「友」、自由吟)

(出句247名、455句)

【最優秀句】

戦争は友達なくす戦いだ

金子 竜大 (高松小6)

【秀句】

友達はお金で買えない宝物

浅野 梨花 (高松小6)

ほめるよりしかってくれる友だちだ

杉本 祐輔 (七塚小6)

くじけても言葉をかけてくれる友

坂本 望咲 (高松小6)

【佳句】

人見知り勇気をだして親友に

江上 千尋 (高松小6)

人間は友を通して生きていく

小川 絢聖 (高松小6)

友たちはみんなの大事な宝物

竹中 花菜 (高松小6)

友達といると楽しいまほうだな

松田 姫茄 (七塚小6)

みとめ合い競い合って高め合う

星山 幹太 (七塚小6)

【入選】

つくろうよみんなといっしょに想い出を

折戸 縁 (高松小6)

友と共に生きていくこと大切だ

小村駿太郎 (七塚小6)

けんかして笑い合うのが友達だ

竹内 葵 (高松小6)

友達と仲良くすればいじめ減る

山田 莉紗 (高松小6)

話しあい笑顔あふれる学校に

山本 悠花 (高松小6)

絶交だすう時間たてば友達だ

江川 大智 (外日角小4)

友達は大事なんだ大切に

川崎 庸平 (高松小6)

友達と解決しようなやみごと

木村 香乃 (高松小6)

がんばろうはげまし合えばみな仲間

越村 陽向 (高松小6)

いじめなしみんな優しく接するよ

坂本 愛鈴 (高松小6)

友達といると元気がわいてくる

谷口 咲吉 (大海小6)

気がつけばいないとさびしい存在だ

寺岡 聖 (大海小6)

友達は相談できる仲間だよ

吉多 真奈 (大海小6)

大切なものはやっぱり友達だ

酒井 奨吾 (七塚小6)

友達がたくさんいると楽しいな

能口 愛理 (七塚小6)

友達といると笑顔があふれ出す

紺谷 美帆 (七塚小5)

友達ときれいな海をみていたい

山崎 千裳 (七塚小5)

親友はいまだにいないさびしいな

そ野さくら (外日角小4)

夏祭り友とゆかたで花火見る

北端 里咲 (外日角小4)

おとまり会みんなと仲を深めるぞ

新田 さや (外日角小4)

◇中学生の部 (課題「友」、自由吟)

(出句133名、235句)

【最優秀句】

枯らさずに友情の花大切に

中村日奈子 (高松中3)

【秀句】

ケンカあり涙あってもはなれない

竹田 安里 (高松中2)

つらい時いつでも横にいてくれる

兼田 大智 (高松中2)

また明日そう言い合える友がいる

山口 鈴菜 (高松中3)

【佳句】

友達とともに学んで道かわる

竹森 伶菜 (高松中3)

絶交と言っても明日は仲直り

石津 達也 (高松中2)

ストレスは友の話でかいしようだ

堀 安里 (高松中2)

友だちのプライバシーはのぞかない

清水 登彩 (高松中3)

言い合えるそれが本当の仲間だね

折戸 咲文 (高松中2)

【入選】

支え合い分かち合える僕の友

松尾 淳宏 (高松中2)

風が吹き友の涙が飛んでいく

櫻井 雄馬 (高松中3)

友達が全員ブスならモテるのに

干場 翔也 (高松中3)

おおげさにあいそ笑いをありがとう

寺津 零衣 (高松中3)

帰り道恋の話で盛り上がる

干場 菜月 (高松中2)

けんかして気まずい雰囲気ならめっこ

塚本 征良 (高松中2)

友達は涙をぬぐってくれる人

中江はづき (高松中2)

その君チャック全開きづいてる?

中江 康 (高松中2)

けんかとはすごく仲いい証かな

高田 愛理 (高松中2)

あの人は男がいると声変る

平井 詩乃 (高松中3)

友だちとと思っているのは私だけ?

高橋眞日留 (高松中3)

悪ふざけしすぎで友達マジギレだ

竹内 雅結 (高松中3)

思い出すおれ達だけの秘密基地

竹中晃太郎 (高松中2)

ああ友よあの日の約束どこ行った

嶋 乃々佳 (高松中2)

ライバルは一生ライバル勝つまでは

大多優里加 (高松中2)

◇一般の部 (課題「世界」、自由吟)

(出句28名、53句)

【最優秀句】

鶴の地で世界平和を発信す

寺内 徹乗 (高松)

【秀句】

九条が苦情に変わる世界かな

塩山 破童 (高松)

世界中文化遺産に九条を

世界一素敵な九条何故反故に
小山 広助(高松)

井口 武久(木津)

【佳句】

埋め立てた岩礁世界は認知せず

杉本 博喜(木津)

世界中飢えと差別の根は地下に

松尾 正寿(内高松)

解釈を変えて世界のどこ行くねん

架谷 俊子(高松)

敗戦を語り続けて七十年

城戸 寿子(高松)

今生きる72億手をつなご

小山 康子(高松)

【入選】

子を思う母の心はみな同じ

寺内 宏美(高松)

世界地図どこかで戦いまだこりず

松山 高子(木津)

万灯会世界平和を願ひ燃え

橋爪 宏(高松)

アメリカと世界で戦安保法

小山 隆(白尾)

ISは争いを産む魔の世界

竹田 求(高松)

地球儀をくるくる回して旅世界

田中 禮子(上田名)

かがやきに乗る人観る人この世界

笠島 和夫(高松)

核兵器なくして世界皆平和

井口 和子(木津)

人はみな世界の平和願ってる

森田登志子(高松)

神々も共存できる和の世界

沢野しげ代(木津)

平和こそ世界の民が希求する

小山 紀子(高松)

世界地図思い思いに色をぬり

山口 美和(高松)

明日から銃を担げと戦争法

遠田 勝良(木津)

地球儀に世界をさがす幼き日

道原 猛彦(秋浜)

平等に命を照らす青い星

竹中つる子(高松)

ナデシコが世界の明日を爽やかに

酒井 信子(木津)

県内外から89人が参加

第29回鶴彬忌川柳大会

第29回鶴彬忌川柳大会が8月30日(日)、生憎の雨の中、かほく市高松の産業文化センターで開催されました。今年も千葉県からも川柳人が遠路お越しになり、富山県からの15名も含め、89名(内投句5名)が競う大会となりました。

午前九時受付開始。前もって出された宿題「きつと」「表す」「蔓」と、当日出された題「乱」について参加者は川柳を作りました(題の頭文字はツル、ア、キ、ラ)。投句し終え、時間のできた参加者の中から、千葉県の方をはじめ、富山県や小松市の8名が、鶴彬の句碑と資料館などを見学されました。

午後1時に開会を宣し、まず平和と平等を叫び続けた鶴彬と、長く鶴彬忌川柳大会の実行委員長を務め、今年5月に急逝された横井勘童さんに黙祷をささげました。石川県川柳協会副会長の本田一三一人による献句披露の後、かほく市川柳協会会長の橋爪無声子さんが開会の挨拶、続いてかほく市教育長の遠田敏博さんとかほく市文化協会長の高平良司さんから挨拶があり、石川県川柳協会会長の福村今日志さんからお祝いの言葉がありました。

次に、第20回全国公募「鶴彬川柳大賞」の入賞者の表彰に移り、当日出席された「優秀賞」の妻木義山さんと清左とみさんに賞状と賞金の贈呈がありました。

句会は席題の披露から始まり八名の選者の披露が続きました。最後に選者八名による投票で最優秀句賞が決まり、賞状と県協会の盾が贈られました。高松川柳会事務局の中田喜英子さんの閉会の言葉で大会を占めくりました。引き続き懇親会に移り、参加者全員が午後4時半すぎまで交流を深め散会しました。

◆鶴彬への献句 (受付順、敬称略)

- 彬忌に雨が降るのも珍らしい 福村今日志
- 平和への誓い新たに鶴彬忌 北 宏子
- 万燈会彬静かに眠る街 中田喜英子
- かなかなへ彬の声を重ねてる 竹中つる子
- 安保法斬れば赤い血彬の忌 小山 広助
- 天国の彬は今を何と見る 橋爪無声子
- 反戦のこぶし握って彬の忌 遠田亀公子
- 初掘りの芋を供えて彬の忌 井口 武久
- 平和への願いひとすじ彬の忌 中田 伸子

残暑日に元気な柳友彬の忌
 戦争が終わってみたら飢えていた
 彬忌にしとしと降るは涙雨
 平和とはふと立ちどまる彬の忌
 どのあたり歩いておわす彬忌に
 九条をつつき始めた日本丸
 喜寿越えて逢いに来ました鶴彬
 七十年平和守って彬の忌
 ぬるま湯へ鶴のひと声天の声
 彬忌へ今の平和を感謝する
 柳友と会わしてくれた彬の忌
 世界史に刻め彬の川柳を
 鼓駅新幹線がすべりこむ
 古稀の句に学ぶ術なし鶴彬
 彬さんただただ平和望むだけ
 恒久の平和が揺らぐ彬の忌
 九条が静かになれぬアキラの忌
 法師蟬秋思を誘う彬の忌
 九条の解釈緩くなる政治
 きつとまた戦彬の危惧の声
 がつしりと平和を願う鶴彬
 また会えた喜びに沸く彬の忌
 戦火など無くす努力をヒト科なら
 温かいもてなし感謝彬の忌
 九条も泣いていますか今日の雨
 能登の海彬の思い秘めて風ぐ
 ススキ揺れ真面目に巡る彬の忌
 野の花に心やすらぐ彬の忌
 防衛論戦の音がしてならぬ
 高松に柳人つどう彬の忌
 我にあと何回あるや彬の忌
 七十年響き続けた彬節
 孫生が繁る丸太のモニュメント

竹内 勝利
 北 光二
 今村喜久枝
 浜木 文代
 松田 秀子
 洞庭 泰
 長谷 豊枝
 坂 範子
 北村幽犀子
 田村 武
 中村 正樹
 寺内 徹乗
 吉田 通子
 城山 悠歩
 森清 泰範
 岡田 友二
 今井ひさを
 田中 嘉雄
 山下いつお
 山本まさる
 藤田のぶこ
 端河 潔
 濱本 耀子
 川中 陽子
 表 よう子
 東野やす子
 沢田 咲子
 中川 洋子
 石倉多美子
 奈倉由紀子
 越川 智慧
 伊東 志乃
 竹内いそこ

民よりも大事な己が金バツチ
 ありがどうの声に苦勞溶けてゆく
 手の鳴るほうにみんな傾く彬の忌
 身を挺し戦を警句鶴の声
 反戦の旗いつまでも句に残る
 軍服の父にも古稀の齢くる
 反戦に今なお生きる彬の忌
 今年又彬忌に会うありがどう
 雨の中笑顔うれしい彬の忌
 彬の忌父は黙秘で逝き給う
 反戦のタクトを振って浮かばれず
 夕餉時のニュースに彬忌の平和
 戦争の悲惨きこえる平和の灯
 死を心の片隅におき生きて
 彬さま今年もまたまたやっ来て来た
 彬忌の今日の命に合掌し
 反戦の拳を上げる彬の忌
 ルビローマン今年も高値彬の忌
 銃声に彬の叫び届かない
 九条が揺らぐ今こそ反戦を
 彬の忌反戦の詩(うた)よみがえる
 彬の忌もう秋です赤とんぼ
 原発も介護も重い彬の忌
 生命かけ五七五の反戦句
 反戦の思い新たに彬の忌
 平和論空回りする彬の忌
 暑さにもめげず会いたく彬忌へ
 安保护法の墓がねむれない
 彬の忌命の重さ考える
 青空を汚してならぬ彬の忌
 九条を守れ彬の声がする
 九条がゆれて彬は眠られぬ
 安らかに眠って居れぬ彬の忌

小林 正美
 すぎき善作
 妻木 義山
 清左 とみ
 石垣千恵子
 岡本 聡
 篠島 隆
 木下 容子
 山村 恵子
 小東 京子
 六反日出緒
 中島 恭子
 松本 淳子
 安田けんじ
 斉田 貞男
 森田 桂
 小森ふじ子
 縄手 均
 沢田まさる
 外浦恵真子
 穴田 圭子
 寺田 香林
 樋爪ふみ子
 赤尾よしき
 谷尾 心山
 赤池 加久
 尾田 洋子
 山形 和子
 辻田みえ子
 三輪 彩
 石本よし一
 小西 都
 小西 涼成

天変地異今もかわらぬ彬の忌 隅田 外男
 戦争の方へマグマが不気味にも 小森 靖江
 人間の愚かを叫ぶ鶴の句碑 高塚 夏生
 七十年今叫ばねば平和論 今村 久栄
 耳ふさぐテロへ平和をただ祈る 苗代ときこ
 彬の忌柳友の顔平和です 廣正かつじ
 限りなく歴史は続くまだ戦後 本田一三一

鶴彬資料室のブログ開く

今年2月よりインターネット上で「鶴彬資料室」のブログを開き、鶴彬の人生や川柳、資料室の展示について少しずつ情報発信を始めました。閲覧者がゼロの日もありますが、毎日1〜20名が読んでいます。このブログで川柳の投句を募集したところ、今までに2名の投句がありましたので紹介します。

■世が世なら笑福亭か鶴彬
 愛知県 四迷亭(48)

■天空のタカ追えず手に古うちわ
 兵庫県 かわちゃん(70)

ブログの更新が多ければ多いほど、アクセスも増えるそうなので、コツコツと頑張つて更新していこうと思います。
 このホームページは検索「鶴彬資料室」または「http://blog.livedoor.jp/tsuruakira」で閲覧することができます。(寺内 徹乗)

鶴彬から学ぶ明日への道

宇部功氏講演

《7月11日、かほく市・浄専寺》

みなさん、こんばんは。これは3回目の授業ということになります。7年前にこの場所に立って鶴彬の話をしたのですが、鶴彬のことを私以上に知っている方がたくさんいらっしゃるのかなと思います。7年前に参加した方はどれくらいいますか？

実は昨日、高松小学校と大海小学校で鶴彬の授業をしました。岩手県では百回以上授業をしているのですが、県外で授業するのは初めてでしたので、来る前にこちらでどういう教科書を使っているのか、どういう勉強しているのか、こちらに来てから確かめました。岩手と全く同じ教科書を使っていました。

何も心配することはない。岩手と全く同じようにやらせて頂きました。

何が一番やりにくいかと言えば、事前にとの程度過去のことを知っているか、それが分からないと、鶴彬という人間を知って頂き、鶴彬の句の良さを伝えるのに大変な時間がかかります。

岩手県では5年前から、小学校6年生に45分、休憩をいれてさらに45分、2時間で授業しています。なぜかというところ、やはり鶴彬だけ伝えるのはもったいないかなと。もともと人間の生き方なり、これからの自分の未来をしっかりと考えてほしいということで、3人の人物を挙げて、私なりの共通点を話させても

らうと90分かかります。

映画「鶴彬―心の軌跡」に観客ごっこ

この辺は、映画の話題でわいたと思います。実は今、岩手でやった映画のチラシを持ってきました。岩手では公開の年の11月14日に行いました、最初350人ぐらいを予定していたのですが、何と希望が600人集まりました。



講演する宇部功さん（高松・浄専寺で）

会場に入れないと、午後1時、午後3時と、2回に分けてやらせていただきました。どちらも350人くらい入りました。1回目見終わったら人が出たふりをして入っていった人が何人かいました。（会場笑い）「それはちょっと待ってください。2年くらいするとDVDが出ますので」と。

この映画の効果で、今まで川柳をやられてない方、あるいは全く関心のなかった人にも広がりました。

川柳をやらないうちに感想を聞き取って見ました。「鶴彬という人の作品は分かりましたか？」と。「映画に全部流れていますね」という答えでした。なるほど。そういう答えは心強いですね。あの映画を通して反戦の流れ

が分かってももらえれば、鶴彬の句が分からなくても構わないです。

鶴彬の句を理解するということは、実は川柳人でも難しいことなんです。川柳を始め、大会に出たり句会にでたり本を読んだりして3年目ぐらいに鶴彬にたどりつきます。そこでたどりつかなかった人は川柳を脱落している人です。鶴彬の人物を知らない、川柳も全然分からないという人は、その後10年たっても分かりません。

鶴彬は、サラリーマン川柳とか駄洒落の川柳とか、そういう本を読んでいる人にはほとんど通用しません。それも川柳だと認めた方がいいんじゃないかという人もいますが、文学を志す人には反感があります。鶴彬はちょっとやそつとで人が分かるような句は作っていません。

情報発信で鶴彬は今や有名

鶴彬は、これ以上の人はないというくらいの人材です。なぜかというところ、川柳のどの本にも載っています。このごろは、鶴彬本人についての本もたくさん出ています。先週は青森県の弘前に行き、帰りにジュンク堂という大きい本屋に寄りましたが、鶴彬に関する本が2冊置いてありました。全国的に知られているのです。それもこれも映画の効果があったのじゃないかと思えます。

今回、私がここに来ることになったのは、情報発信の強さです。特に、こちらで出している「はばたき」があります。これは鶴彬を顕彰する会の角島さんを中心に作成して頂いています。この中に岩手の中で実践した

子供たちの鶴彬に関しての作文を載せて頂いています。それがもたになって、共同通信という、世界へ、日本全国へと情報発信している会社で、ことしは戦後70年ということで全国から企画を募集したそうですが、奈良の支局長が自ら応募しました。

最初は鶴彬ではなくて、言論の自由ということで、京大俳句事件について取材をして載せる予定を考えていたようですが、たまたま、この「はばたき」が目について、子どもたちの作文が目に入って、私の所に昨年12月17日に突然電話がありました。最初、何が何だかわからなかったですよ。「私は共同通信の支局長ですが、全国の地方紙に企画を今出すところですよ。できれば鶴彬の授業を盛岡で、しかも2月中にやってくれませんか」ということでした。「やつて」と言われても学校がどうなるかわかりませんでしたので即答はできませんでしたが、「1週間後に電話します」ということでした。

石川啄木の故郷で鶴彬の授業

選ばれた学校が、石川啄木が生まれた場所から300m以上離れた小学校で、向こうが指定してきました。「是非、啄木の故郷の学校でやつてくれないか」と。私が「なぜ、そこを選んだんですか？」と聞くと、その方は大の啄木ファンで、私以上に啄木を知っていました。しかも奥さんは啄木の短歌をほとんど何も見ないで言えるほど短歌の好きな人で、盛岡には10回以上来たそうです。啄木を知っていて、しかも鶴彬ということだ。

この作文は、啄木と鶴彬の関係で書いてい

るんです。たぶんそれが目に留まったのだと思います。一つ読んでみます。

「私は今回2時間の授業で鶴彬の川柳について学びました。鶴彬はたくさんの努力をしてくれた人だと私は思いました。人一倍勉強し、人一倍苦しい思いをし、人一倍高い目標を持っていたと思います。とてもすごいと思います。今、私たちが暮らしている岩手県の昔の詩人の石川啄木と何らかの偶然で、ちよつとした関わりがあつて、世の中は狭いなど思いました。」

まだ続きます。鶴彬の授業をして、鶴彬のすごさ、理想の高さをたった90分の中で子どもたちほとんどはこれと似たようなことを書いているのです。啄木の話もしますので、それもすっかりとらえています。

共同通信の奈良の支局長さんがこれを読んだときに、とつさに「鶴彬をやるしかない」と思ったそうです。企画書を3日で書き直し、すぐ共同通信の東京に送り、決定したということ、私の所に電話が来たところでした。その小学校の授業も2月19日に決まりました。その日は、啄木が生まれた前の日です。2月20日が誕生日です。啄木はお寺で生まれているのです。その方とお寺でお参りをして、小学校に向かいました。300mなので車ですぐ着きました。

鶴彬と呼ばれて高松にやつてきた

ここ高松で授業できるということは私にとつても初めてでしたし、ある意味では鶴彬をさらに発信する一つのきっかけになればいいかなと思つて参りました。

鶴彬の記事を全国27の地方紙に載せて頂きました。茨城新聞は1頁の4分の3を使ってカラーで載せて頂きました。こちらの方の新聞にも大きく取り上げて頂きました。実は先週、京都から電話があり、「何とか来ていただけませんか」ということですが、「来週から高松に4日間も滞在するので、その後、盛岡の夏祭りにも参加しなければいけないし、今学期はとて行く余裕はないので」ということでお断りしましたけれども、機会があれば、鶴彬のためであればどこにでも行つて一生懸命やりたいな思っています。

今日たぶん、鶴彬がその辺にいるんじゃないかと思いきつきから探していましたけれども（会場笑い）、私は鶴彬と呼ばれて来たのではないかと思えます。

さきほどご挨拶にありましたが、安民法案なる、とんでもない風が吹いておりまして、まさに来週が山場だというふうに通日テレビで紹介されています。「何が何でも法案を通す」。そこから何が起るか、ほとんど見通しがない。世論調査では8割がまだまだ理解していない。憲法学者は、誰も彼もが反対している。昨日は、安倍首相は誰にも呼ばれないのでしようがなくインターネットで無理やりやっているようですが、その中で国際法の学者が云々と言っていますが、それはとんでもない話で、憲法学者200人いれば180人以上が「安民法は違憲だ」「絶対に九条に触れる」と言っているくらいです。私は、国民投票してほしいんです。ギリシャ並みに。明日にでも。そういうことを誰も言わないので、鶴彬がここで歯がゆく思っていると思います。

いろんな人との出会いが川柳の魅力

私がここに来る前、実は岩手県議会は、全国に先駆けて安保法に反対を決議しました。ほとんどの議員は反対です。自民党の県議でさえ、躊躇して反対にまわろうかという骨のある人もいます。以前にも県議会の人々と、自民党から共産党までいるのですが、川柳と一緒にやったことがあります。その場では、下の名前で呼び合います。功さんとか、たかしさんとか。議場ではやりあうのですが、川柳をやる人はマナーとして宇部さんとは絶対に言いません。国会議員でも農家の人でも同じように呼び合います。そこが私好きだったのです。

川柳を40年やってきて何が良かったかとよく聞かれるんですが、「やっぱりいろんな人と出会えたことが一番良かった」と答えます。

川柳から学んだ全国レベルの人材育成

学校だと一つのレールに乗ったような方向しか見ていない先生しかいません。私は40代から学校教育ではなく社会教育に目を向けなさいという感触です。校長先生に「日曜日に仙台の川柳大会に行ってきたてもよろしいですか」というと、「行ってきなさい。月曜日に午後から登校すればいいから」というくらい理解のある上司でした。

なぜかというところ、社会を広く見て、子どもたちにそういう視野で指導していく。そして盛岡や岩手県の人材で終わるのではなく、全国で通用する、しかも世界で通用する人間を育ててほしいという高い理想です。

しかし、それはすごいプレッシャーでした。その校長いわく「おれは金を出す。教育はすべて任せる」と。私は若い頃、20年間、サッカーの監督をやっていたとして、夏休みは朝5時に行つて練習していました、近くの中学生も交えて、だいたい80人ぐらいを指導していました。ライバル校には鹿島アントラーズの小笠原という選手がいました。彼が小学生の頃でした。

「岩手県で通用する人材では駄目。スポーツ選手でいうと最低限国体選手にしてくれ」というのが一つの目標でした。「盛岡や岩手県の大会で勝つても面白くないというように指導してくれ。とにかく全国の舞台に出すように育ててくれ」といつも言われていました。私がいた当時は小学生がバレーボールで全国大会に行きまして、当時全国に出た選手が今盛岡市内のほとんどの中学校、高校でバレーの監督をしています。そういう舞台に立った選手が故郷に帰り、それなりの仕事もするし、責任をもつてやる人材になってくると思うんです。

高松でも、鶴彬という全国に知られた人材がいるわけですから、この人材を生かして、高松からそういう人材が育つてほしいし、そういう人たちが世界に出て、国連でもいいです。平和について話ができる人材を育てていかなければならないと思います。私はそういう思いでずっとやってきました。

「今よければいい」ではなく、未来を大事にしていかなければならない。そのためには厳しいところは厳しくしなければならぬし、細かく見なければいけないところは細かく見なければならぬ。そこが難しいところ

なのですが、その点、スポーツ選手を育てることは楽なんです。記録があります。そこをもとにして目標が出ます。次の日にこれより良い記録を出せばいいのですから。石川県では、いい選手がたくさん出ていますので、そういう面では楽しみです。

鶴彬の句碑の活用が大切

今日、私は石川近代文学館に行ってきました。ここもすごい人たちがたくさん出ていますよ。あのように続く人材を、是非育ててほしい。年に1回といわず、小学生も中学生も行つてみて、刺激を受けてつながっていくのかもしれない。

幸いなことに鶴彬に関しては浄専寺さんをはじめ句碑が建ちましたので、そういうところを巡って歩くというのも考えて頂きたい。句碑が建つただけではだめなんです。その活用がこれから問題になるんです。

夕べも、10人ぐらい集まってお酒を飲みながら12時まで続きそうな論戦を延々としましたが、あの勢いで行けば、そうした句碑を生かした活動は2年ぐらいで達成できるのではと思いましたが。私の感じたことをいくつかお話しします。

まずは情報発信ですが、一生懸命やられています。これからも続けていくと思うので、それはそれでよいと思いますが、一番早く取りかかなければいけないのは人材育成です。鶴彬を伝えていく人をどう育てていくかということですね。

そこで、今日、私が小学生の授業に来たというところが一つのきっかけになればいいなと

思うんですが、それだけでは駄目で、一番いいのは親なんです。学校と親が仲良くなつて、そして親が中心になって進めることのほうが重要です。

私も川柳を長い間子どもたちと進めてきました。最初は私が中心でした。ある時期に「私たちも作品を出してもいいでしょうか」という親があらわれました。「いいですよ。子どもたちと一緒に作ってみて下さい」と。私はすぐ通信に載せました。

いつの間にかほとんどの親が川柳を出していました。途中から、子どもが「うちのおばあちゃんや横浜にいて、俳句を習っているんですけど、おばあちゃんも出していいかと電話で言われたんですけど、どうですか」と。「どうぞ、どうぞ、家族川柳大会にしましょう」ということで、今まで電話だったのが、県外のおじいちゃんおばあちゃんからハガキで来るようになり、親子の会話がよくなったという話題が学校に来ました。

10月の参観日がありまして、私は冗談で「親子川柳大会をみんなで楽しんでみませんか」と学級通信に出したのです。そうしたら、普段川柳を出しているおじいちゃんやおばあちゃんやさんが来て、学級が子どもの数の倍くらいになり、びっくりしました。私は「一人か二人くらいは来るかもしれない」と思いまして、百円ショップに行つて30個くらい商品を用意したのですが、全然足りなくて、遠くの人に差し上げて、近くの人には次の日に届けました。最初は学校中心でいいのですが、親とか地域とかが一緒になって鶴彬を盛り上げて頂ければいいかなと思います。今すぐ手取り早くできることは、6年生、5年生あたりが学

校から親子で浄専寺さんに来て、鶴彬がお生まれになった句碑もありますし、最後に立派な資料館がありますので、見学してもらおうのもいいのかなと思います。最初に資料館に来て、ある程度学習して句碑を巡るという手もあります。

それを一年目にやってもらいます。それだけでは足りません。次の年に、子どもたちだけで回らせるのです。そして、浄専寺さんに来たならば、前もって課題を出しておいて、平和なら平和について句をつくる。また別の所で句を作る。そして最後に資料館に行つてみんなで話し合いをすれば、最高ですね。そこまで行けば、鶴彬を忘れないでしょう。句碑を建てたからいいのではなく、建てたら生かさなきゃならない。

盛岡に「手と足をもうだ丸太にしてかへし」の句碑がありますが、私はあの学校に13年間お世話になっていきます。教員として10年間、そのうち7年間は鶴彬の授業をやつて、他の学校に4年間いて、管理職としてもう1回その学校に3年間勤め、10年間くらいはあそこの学校で鶴彬の授業をしていました。

4年生からオリエンテーリングみたい親子で回り、5年生で鶴彬の授業を私がして、6年生には自分たちで回って川柳を作つて学校に戻ると言うパターンを作りました。今でもその学校では、6年生は私のところに句を送ってきます。その他に岩手県内で20校で毎月課題を出しますので、私に句を送ってきます。最低1300句、多い時は2100句集まります。選んでいるのはわずか150句です。全国どこに出しても入選するような句しか選びません。岩手の小学生は全日本や国民

文化祭でトップレベルに来ています。

そういう句に選ばれるコツは何かといつも聞かれますが、コツはありません。練習しかありません。期日ぎりぎりにファックスや郵便でバンバン来ます。5分くらいで選考を終わらないと三日間で発信できません。そういう仕事を10年間しています。

この本(宇部功著『子どものころ五七五』)を出して12年になります。国民文化祭に入選した句も入っています。全国どこに出しても入る句です。これを選ぶのに1年かかったのですが、3万句から選んだ句です。もつと載せたかったのですがスペースが限られていたのです。鶴彬を発信する手段として、句碑をどう生かすか、そして次の世代に広く伝えてほしいなと思います。

鶴彬を伝える指導者育成が課題

私からすると自分もまだやっていないことなんです。人材育成の次は、指導者の育成です。鶴彬をガイドできる人を何人か作ることに絶対が必要です。それが情報発信していくなかで重要です。

私は退職してから「子ども川柳を育てる会」を作りましたが、子ども一人一人を育てるより、指導者を育てた方がいいだろうということ、川柳を送ってくれる20の学校から半分、10人くらいが夏休みと冬休みの2回、研修会をやります。そこで、子ども川柳の評価の仕方や、子ども川柳を通して何を育てればいいのか、そして鶴彬の授業で何を伝えるかをやります。

その根底にあり、一番大事なことは、学級

経営、学年経営の問題です。一人一人の子どもを大事にするということを、川柳を通して生かすということが一番大事だという話を何回もします。

この話をすることはつらいことなのですが、ここ数日、岩手県で起きたいじめ自殺のニュースがテレビに流れています、あれをなくすためにも川柳を提唱したのです。

私が川柳を始めたのは29歳ですが、必死になってやったことは生徒指導で川柳を活用したことです。まだその当時、出稼ぎがありました、半年以上父親がいない家庭が10人中3人くらいいました。それから、お母さんが働いて夜しか帰ってこない。結局おじいちゃん、おばあちゃんも育てている家庭が相当数ありました。したがって情報が入ってこない。ですから子どもたちから川柳を通して的確に情報を得ることを第一に考えました。子どもたちは素直で、自分の暮らしをしっかりと書いてくれましたので、川柳を通して学級経営、学校経営に活用できました。

いずれ指導者を育てて、出来れば、かほくの先生方に鶴彬を伝える研修会を立ち上げることをしていかない限り、広がっていかないと思います。私がここに来て授業をやるのは、それはそれでいいのですが、ここの出身の先生がやらないと、底辺が広がっていきません。そういう人たちが次の世代を育てていくと思います。

この10年間で、最初は岩手で3、4校しか川柳をやる学校はありませんでした。今は22、23校、そのうち投句してくるのが20校。全学年でやっているのが5校あります。大きい学校は2年生から6年生まで600句持っ

てきます。小さい学校は1年生から6年生まで全員送ってきます。

その一つは、平成12年に、1回45分の授業しかしていない盛岡から離れた八戸に近い学校があります。その学校では15年間、先生も生徒も何回も変わっているのですが、川柳を送ってくるのです。ですから一つの伝統さえ作れば、子どもたちは自分たちで継承されるのです。そういう学校は、4月25日締め切りなのに、1年生が送ってくるのです。こっちは考えられないです。6年生が2週間1年生を特訓するそうです。全員ができるんです。

そういう地道な努力がされている学校には、もう1回行ってみたいと思います。そちらの学校には鶴彬の通信を送ります。そちらの先生から「いつかは来て下さい」と言われ、機会がなくて行けないのですが、鶴彬の関連資料を送り、「もしできるなら、鶴彬の句があることを6年生に伝えてくれませんか」とお願いします。川柳を作っている学校は、鶴彬の川柳も分かるのです。

川柳をやっている学校で鶴彬の授業をやってくれと言われたら、何日も前から楽しみにしています。カレンダーにはなまるをつけます。もうすでに10月の末に宮沢賢治の花巻の小学校に来てほしいと、春から依頼されています。

情報発信も必要だし、人材育成もすごく急がれます。早く取り組んで少しずつでもいいから人を増やさなければならぬ。

歴史散歩など町内会との連携も

できれば、町内会。ここに、役員の方はい

ますか？ 実は私は町内会の会長もやっています。帰ったら班長会議で35人くらい集まるのですが、とんでもなく忙しい仕事だと分らないで8年間やっています。その中で「ふらつと歴史散歩」を年に6、7回、企画してやっています。

近くのお寺さんに行き、歴史のロマンを伝えるようなことをやっています。こちらもそういう意味では、いろいろやれるんじゃないかと思えます。町内会と連携して鶴彬を広めることも必要です。

歴史散歩をやったところは小中学生くらい若い人を育てようかなと思ったのですが、来る人は50代以上の人がばかりです。恐らく、家に帰ってからお孫さんとか誰かに、「町内にすごいがあるんだよ。知らなかったね」とご飯食べながら話をしてくれるんじゃないかと思っています。鶴彬を広めていく方法はいっぱいあるんだと思うんです。

盛岡には鶴彬のお墓もあります。句碑もあります。ですから、必ず年に1回そのコースを私の独断と偏見で無理やり回っています。石川啄木や宮沢賢治に関連したお寺さんがたくさんあります。私は岩手県の名前になった三ツ石神社の役員も兼ねていまして、岩手県のガイド研修の講師もやっています。保育園の理事もしています。名刺に書くところくらい役職をやっています。

未来を見つめていた啄木と鶴彬

いろんな人のつながりの中で、私も鶴彬だけをやれませんが、石川啄木と鶴彬のことはしっかりと伝えていきます。なぜかという、鶴

彬の存在は石川啄木があつたからなんです。鶴彬は石川啄木の歌を中学校の時代にはほとんど知っていたといいます。あの映画を見た人はすぐ分かると思います。鶴彬は妹に短歌を教えています。鶴彬はものすごい啄木ファンなんです。

鶴彬は最後に、自分に川柳を教えてくれた明治の大川柳家の井上剣花坊と、石川啄木を比較して文章を書いているんです。彼は川柳もうまいのですが、評論はさらにうまいんです。そこで普通は、「井上剣花坊がえらい」と結論を書くじゃないですか。違うんです。やっぱり石川啄木の方がすばらしいと。なぜか。石川啄木は時代をすっかりよんでいるからです。鶴彬もやはりあの句の中に時代をよんでいるんです。鶴彬のすごさは、時代を越えて今の時代をよんでいるんです。

このお寺さんにある句、「体内の動き知るころ骨がつき」がありますが、戦争という言葉は一つもないし、最初の五七まではすごく嬉しいことなんです。ただ下五の「骨がつき」で暗転し、すごいドラマですよ。

私が小学校6年生でこの句を解説すると、女の子もたちが泣きました。多くの子どもたち、女の子たちが、この最後の「胎内の」の句を書きます。私はそこに鶴彬の偉大さを感じました。ちょうど赤ちゃんができて動いたとき、旦那さんが亡くなり遺骨が届きましたよ、という悲しいドラマです。これだけで映画一本できます。小説一冊書けます。鶴彬の句には今日を予想した句がずらりと並びます。いわゆる「戦争だけはしてはだめですよ」と。

「先生もこのような句を出すんですか？」と子どもたちに質問されます。「私には家族

もあるし親戚もあるし、たぶん出せないかもしれない」と言うんです。「でも、それが人間だよ」と子どもたちが言います。

しかし鶴彬は、この時じゃないと、戦争を止められない。そして後世、日本が戦争に巻き込まれるだけじゃなくて、多くの国にいろんな迷惑をかけるだろうし、子孫にも迷惑をかけるんじゃないかと。今、自分一人が犠牲になることによって、もし救われるのであれば、という気持ちで鶴彬は「川柳人」という雑誌に載せたと思うんです。

その「川柳人」は今も生き続けています。これは岩手県の川柳人が編集して全国に発信しています。今も鶴彬は生きています。この安保法案が来てから、「私を呼んでいるのはそのためだろうな」と直感しました。「今日この日のためにこの句を作ったんだよ。だから、あなたは高松にこないということはどうできないんだよ」というような鶴彬の声が聞こえてきました。

鶴彬は未来をしっかりと見つめていましたし、我々が少しづつでもこの精神なり生き方なり志なりを多くの人に伝えていく義務がありますし、かほく市全体がいろんな方々の力でやっていく時だと思えます。

そのきっかけになるならば、私が二つの小学校で授業をしたことが何かの足しになると思います。私は中学校でも一般の方でも、年間10回以上は鶴彬の話をしていますので、出来るだけみなさんの力で広げていければと思います。

石川啄木なる人材も自分が目指す人がいました。田中正造という人材でした。明治時代の国会で一番先に公害問題を訴えた人です。

足尾銅山の問題です。しかし誰も聞かないから、自分は国会議員をやめて、地元の栃木に帰って住民とともにいて、最後は死を決意して、明治天皇に「私を殺してもいいから住民を生かしてくれ」と直訴しました。

それが昭和60年代までの6年生の国語の教科書にずっと載っていました。だけど消えました。その他、戦争についての6年生の「石うすの歌」という物語りも消えました。ちやうど6年生の今頃学びました。

戦争は教育からやってくる

最後に言いますが、戦争は突然やってきません。戦争は教育からやってきます。教科書のそういうものを少しづつ、消して、消して、消して、消して、最後今日のような事態になるのです。本当に過去の道を今たどっているのです。まさに鶴彬の警告通りです。

私は昭和の終わりから平成になる頃「なんと田中正造を消したんだ」という話があるところでしたら、教育委員会の人から怒られました。「そんなのは検定があるからだ」と。

「じゃあ、私が勝手に検定に落ちたものでも取り上げて教材にして授業していいのですか」と言いましたら「それはあなたの良心に任せます」と言われました。だから、私は岩手で堂々と昭和57年から一貫して鶴彬の授業をいろんな学校でやらせて頂いています。

ある川柳家から「あなたは管理職になれませんよ」と40代で言われましたが、とんでもない。教頭にもなりましたし、校長にもなりましたし、県の教頭会の会長までさせて頂きました。そんなのは全く出世に影響しません

し、全く関係ありません。

要は、どんな子どもを育てるかという信念があれば、そういうことは関係ないのです。鶴彬の思想云々する人はたくさんいますが、そういう観点じゃない。人間の生き方として、どんな戦争もだめだ。いい戦争とかは、ない。それがずっと将来も続いていくし、最後の最後には恨みになって、また戦争になる。連鎖反応になり、きりが無い。

ですから、今までも中国や韓国で反発しているでしょ。つい最近の世界遺産(九州・山口の近代化産業遺産群)の問題は、考えられないですね。最後の最後までクレームをつけてくるんですから。まさに泥仕合なのです。

戦争だけは何かでも絶対やってはいけない。戦争は1回やったら、100年たつても200年たつても消しゴムで消せないんです。修正液でも消せない。拡大だけしていく。

私は今、平成27年の世が平和だとは一つも思っていない。今でも、過去の戦争を引きずって生きている日本国民がいっぱいいます。

「胎内の…」の句、今も生きつづめる

私の先輩は、昭和16年生まれで、東京空襲で焼け出され、お父さんを亡くし、岩手に疎開に来て、お母さんは独りで子育てして、先輩は教師になったんですけど、東京空襲のことは今も忘れられない。父親が残っていたのは軍隊手帳一つだけで、それを母親が岩手に持っていき「これがお父さんだよ」と言っていたそうです。

「胎内の動き」の句と同じことがあります。岩手の盛岡で、鶴彬の授業したときの担

任の先生が「私もこれと同じです。実は父親を知りません。戦死したと親戚の人から聞きました。中学生になるまで母親は教えてくれませんでした」と言いました。

やはり鶴彬は今も生き続けていますし、今後とも戦争については大きい声でどこでも伝えてほしいと思います。

ありがとうございます。

(文責・寺内徹乗)

反戦川柳―勇氣のある志を伝える

《宇部功氏特別授業の記事を拝見して》

岩手県在住 上田 敏雄

4月30日付岩手日報連載「戦後70年 ゼロからの希望 反戦川柳」の記事に、目が釘付けとなった。元伊保内小で同僚だった宇部功先生(72歳)の大写しの写真が、目に飛び込んできたからだ。

「手と足をもいだ丸太にしてかへし」

という川柳などが書かれた黒板を背にした彼が、教室の子どもたちに質問している。

「鶴彬という人の句です。どんなことを言っているのでしょうか」

写真は、盛岡市立玉山小で2月に行われた5、6年生合同の「鶴彬と啄木―先人に学ぶ」の特別授業の光景。記事は、授業過程や子どもたちの反応まで詳しく伝えている。黒板全面に書かれた文字や略図からは、戦争の恐ろしさ、言論の自由の大切さが読み取れる。

川柳に関して門外漢である私が、初めて出合った句である。句の意味を理解できるようになったのは、彼が7月9日に、石川県かほ

く市で特別授業をした記録を送り届けてくれたからだ。

「もいだ」というのは、鶴彬の出身地の石川県では「無理やりとった」という意味だという。大陸で下級の兵士が手足を負傷して悪化すると、麻酔もしないで、無理やり押さえられて切断される。そして、手や足がなくなると、日本に丸太のようにされて帰される。

このような戦争の残酷さを訴えている。この句の意味が理解できたとき、私は強い衝撃を受け、川柳の力の大きさを感じた。川柳を深く理解するためには、歴史を学び、「時代を読む」ことができる力が必要だという彼の持論に、改めて納得できた。

さらに彼の授業は続く。終戦後、道路や神社の境内で、白い服を着た傷痍軍人の姿が見られた。アコーディオンを弾いている人の足は、鉄の棒が入っている程度の義足。その両側にいる一人は募金箱を持ち、もう一人は、片腕がなくて白い布で隠して立っていた。彼はこんな切ない思い出も語り、どんな戦争もやってはいけないと強調する。

鶴彬は、本名喜多一二。「1909年(明治42年)、石川県高松町(現かほく市)に生まれる。満州事変、盧溝橋事件などが起こり、戦争にのめり込んでいく時代。批判的な文学作品は、発禁処分を受け、作家は逮捕・拘束されていた。こんな中で、鶴彬は時流にあらがう反戦色の濃い作品を発表し続ける」。彼は「いまこの作品を発表しなければ、未来は大変なことになる」と予想し、死を覚悟して発表していたのであろう。

「手と足を」の句や「屍しほのひないニュース映画で勇ましい」「万歳とあげて行った手を

大陸において来た」「胎内の動き知るころ骨がつき」など6句を発表した直後の1937年(昭和12年)12月、治安維持法違反容疑で特高警察に拘束され、翌年9月獄死する。29才だった。遺骨は盛岡市にいた兄が引き取り、墓は同市・光照寺にあるという。

このことも、本紙を読んで初めて知った。宇部先生が、鶴彬の勇氣ある生き方を伝える授業を始めたのは現役教諭だった1982年(昭和57年)、40年近く分らなかった鶴彬の墓が発見され、「手と足」の句碑ができた頃からだという。平成10年より久慈市立山形小、八幡平市立寺田小などの校長を歴任。川柳を学校経営の中に取り入れて、大きな功績を残されている。退職後は、いわて子ども川柳を育てる会会長、NHK文化センター盛岡・川柳講師を務めている。県内外各地の特別授業に呼ばれて、100回以上も教壇に立っているという。

このような宇部先生の活躍に刺激されて、私も父の唯一の遺品である「軍隊手帳」について一篇の作品を書くことができた。父も鶴彬も「全てお国のため、天皇のためと命が軽んじられた時代」に生きていた。父は2年半の厳しい軍隊生活をし、軍人が守るべき5カ条の精神の暗唱を強制され、間違うと体罰も加えられたという。退官後に病死。32歳だった。驚いたことに、鶴彬と同じ年、1938年(昭和13年)に他界している。まさに「戦争で死ぬのは戦場の兵士だけではなかった」。空襲、原爆、抑留、拘束などによって死傷したり、餓死したりする人も多かった。国民それぞれが悲劇を背負わされた。今もその後遺症が消えていない。「今後、二度と戦争をし

てはならない。再び同じ過ちを犯さないように、みんながもつと声を上げなさい。行動しなさい」。そんな声が、鶴彬の川柳と父の軍隊手帳から聞こえてくる。

去る8月14日、戦後70年の安倍首相談話が発表された。「自身を主語にした明確な表現はない。引用が多く、間接的な言い回しが目立つ。植民地支配などのキーワードについても、日本の行為が侵略にあたるかどうかは明言せず、一般論に終始している」などの批判が出されている。

私が何よりも心配なのは「首相が国際紛争の解決手段として武力は用いない」と言及しているながら、一方今国会では憲法を無視し、これまで許されてこなかった集団的自衛権の容認や自衛隊を世界のどこにでも派遣する安保関連法案を成立させようとしている」ことである。やがて、憲法9条の改悪につながっていくように思われてならない。

これまで政治家は、庶民を幸せにできたかどうか。戦争や貧困で犠牲になるのは、いつの時代も庶民である。日本が戦後70年間平和を守り、戦争で「殺し、殺される」ことなってきたのは、憲法9条のおかげであると言える。子や孫たちにも「日本に生まれてきてよかった」と思えるような平和な社会を、ぜひとも遺してやりたいものだ。

◆投稿歓迎

【次回締切12月20日】

- 鶴彬への思い
- 鶴彬作品の鑑賞
- 「あの時代」について思うこと
- 「はばたき」1〜22号の感想、批評
- その他、鶴彬に関すること

宇部功先生特別授業の感想文(2)

(アイウエオ順)

かほく市立高松小学校六年

●戦争やめるよう何かしたい

《金山 響》私は三年生と四年生のときに戦争のことを調べて戦争はとてもこわいということが分かりました。だから私は自分のひいじいちゃんも戦争や外国に行つて戦争をしてぶじに帰つて来たのですごいと思いました。なのでひいじいちゃんに戦争のことについて聞いてみました。ひいじいちゃんに私は「戦争のときどう思った?」と聞くといひいじいちゃんは

「そりゃあ地獄だったよ。家族にも会えなかったし、戦争から帰つて来たら町はつぶれているところもあったし兵隊さんが足か木の棒でハーモニカをふいている人もいたからびっくりしておどろいたわい」と言っていました。私は、今でもどこか分からないけど戦争をしている国があるから私も鶴彬さんと同じように少しでも戦争をやめるように何かをしたいと思いました。宇部先生、私達に鶴彬さんのことについて教えて下さってありがとうございました。

●鶴彬の川柳を毎日思いたい

《川崎 庸平》鶴彬さんの、勉強会をして、鶴彬さんは、罰をされることを分かっているのに、日本の平和を願つて、川柳をかけたということを知つて、信念がすごく強い人だと、思いました。そして、鶴彬さんは、石川啄木を一番信頼していたということが、すごいと思いました。ぼくも宇部先生と同じよ

うに、戦争をすると、余けい、死人が出ると思おうので、戦争をしなかった方がいいと思いました。こんなことを知ったり、こんなことを思ったりも全て宇部さんの、おかげです。いろいろなことを教えてもらったり、いろいろなことを思わせてくれて、ありがたうございました。これからは、鶴彬さんの川柳を毎日思い出して、鶴彬さんは、どんなことを考えたのかを考えてみたいと思いました。

●鶴彬をくわしく教えてもらい感謝

《喜多 宗一郎》宇部功先生、鶴彬さんの詩を細かく説明したり紹介をしてくれてとても分かりやすかったです。鶴彬さんの作った、「手と足をもいだ丸太にしてかへし」をすくくわしく教えて、くれました。他にも鶴彬さんを喜多一二さんと教えてくれて、とても良く分かりました。

鶴彬さんの作った詩をしつかり教えてくれました。戦争と鶴彬さんの関係をくわしく教えてくれました。これからも高松以外の所も教えてください。お願いします。

●戦争二度とダメの気持ちあふれる

《木下 遥》私は、鶴彬の勉強をしてあらためて平和が一番なんだなと思いました。なぜかという、戦争に行き足や手を失った人が日本に帰って働くこともできないという人が本当にいるんだと知ってかわいそうだなと思ったり、こわいなと思ったりからです。

他にも、鶴彬さんは二十九さいにして病気で命を亡くしてしまったのがもったいないなと思いました。戦争をやめてほしくてほしく時代は反対できない時だったのでもっとほしくなくても行かない時だだったのでほしくなく、心にきずをおう人がたくさんいたのが、今で

はない事なので昔にそういうことがあったという事を覚えておきたいなと思えました。

この事が、川柳にこめられた、残されていたんだなと深くわかりました。もう二度としないという気持ちがあふれてきました。ありがたうございました。

●特高に検挙された大変さ思う

《木村 香乃》鶴彬さんは、明治時代の四二年、高松で生まれて、鶴彬さんの本名は喜多一二さんということを知りました。川柳をかいていて、たくさん書いていたことが分かりました。私は、最初鶴彬さんという名が本名だと思っていたけど喜多一二さんという名前だと知って、そうなんだあと思いました。宇部功さんが、鶴彬さんのことをいっぱい知っていて、たくさん聞けたし、昭和時代では、特高に検挙されて、警察に留置されたことが、とても苦しいことだと分かりました。だから、今では、そういうことはないの、昭和時代では、大変だったと知りました。

●戦争の恐さ深く学んだ鶴彬川柳

《黒田 みゆき》「手と足をもいだ丸太にしてかへし」この川柳には、深い意味があると分かりました。戦争の中、少しでも戦争に反対すれば、牢屋へつれていかれる。だからこそその戦争というものの恐さを深くかいた川柳が、鶴彬の川柳だと思いました。鶴彬は、石川啄木のすごさもしつかり評価するほど、川柳が好きだと言ったことを教えてもらって分かったことです。

鶴彬という名前も知らなかったのに、宇部先生はたくさんそのことを教えてくれました。鶴彬の川柳についてよく分かりました。

●戦争のない時代、鶴彬のおかげ

《越野 李咲》私は、鶴彬さんの話を聞いて

て、戦争はしてはいけないと改めて思いました。ふだんは戦争はだめだとは思っていません。ふだんは戦争のある時代は今じゃ考えられないくらい、こわい時代だったんだなと思えました。その時代に鶴彬さんのような人がいたからこそ今、この時代に戦争がないのではないかと思います。私は戦争に反対したらつかまってしまいう時代に鶴彬さんが書いた川柳のおかげで私は戦争のあった時、どんなことがあったのかをくわしく知れました。鶴彬さんのような人が高松で生まれて活やくしたのはすごいことだと思えました。最初は鶴彬さんを知らなかったけど、一日でくわしく鶴彬さんのことを知れて良かったです。

●「手足もぐ」戦争のこわさ伝わる

《越村 陽向》最初に、鶴彬さんが「手と足をもいだ丸太にしてかえし」という川柳を作ったと聞いた時はちよつとこわかったです。「もぐ」は無理矢理ひっぱたり、取ったりすることだからです。手と足をもぐなんて、一しゅんで戦争のこわさが伝わってきました。戦争に少しでも反対したりすれば死んでしまうかもしれないのにこの作品を出したのはすくく勇氣のいることだと思えます。戦争は一生終らないことであって歴史から絶対に消えないものです。だから私たちが大人になっても戦争は絶対にしたくありません。私が思った鶴彬さんが考える平和は自分はどうなっても、戦争はけつして続けてはいけないものということだと思えます。

●たぐさんの意味込められた川柳

《小森 駿吾》ぼくは、鶴彬さんが作った川柳「手と足をもいだ丸太にしてかえし」を聞いて、いろいろな意味がこめられているん

「だなぁーと思いました。」

わけは、一つの川柳からたくさんさんの思いがこめられているのが伝わってくるからです。

あと、「胎内の動き知るころ骨がつき」その意味は、男の人がけっこんしてから戦争に行つてそのときにそのけっこんした女の人に子どもができてその子どもがもうすぐ生まれる時に戦争で死んでしまった男の人の骨がつく意味です。それをきいてぼくは、男の人が死んでかわいそうだなーと思います。一つの川柳にたくさんさんの意味がこめられていると川柳を作るのは、むずかしいと思つたけどたくさん川柳を作っているのがすごいと思いました。

●つかまる覚悟で川柳だしたすごい

《紺木 章真》ぼくは、大人になつても戦争には行きたくないし、日本がずっと戦争をしなければいいと思つた。理由は、戦争になつたら自分がいやでもなんか紙がきたら戦争に行かないとだめだし、今のところ死にたくないし、戦争にいつかえつてきたとしても手足がなくなるかもしれないからです。鶴彬さんはつかまる覚悟で川柳をだしたのはすごいと思いました。

●川柳書いてなぜ刑務所にて？

《坂本 愛鈴》鶴彬さんが高松出身だと言う事にすごくおどろきました。

宇部先生に教えてもらう前は鶴彬つて「だれだろう」、まったく分かりませんでした。なので、「高松にそんな人がいたなんて」と思いました。

そして鶴彬さんは「なんで川柳を書いたんだろう」と一瞬思つたけど「逆になんでそんな事を書いたり、言つたりしたら刑務所に行

かなければいけないんだろう」と思いました。

宇部先生の話を聞いて、戦争の恐ろしさが分かりました。わざわざ岩手県から来て下さつてありがとうございます。

●勇氣ある鶴彬、高松生まれにおどろき

《坂本 望咲》私は、戦争反対の川柳を書いただけでつかまつてしまうなんて、ひどいと思つた。牢屋に入れた日本人も心の奥では戦争なんていやだと思つているはずなのに、そこまでする必要はないと思つた。宇部先生の話を聞いて、戦争の恐ろしさがわかりました。教えてくださいますありがとうございます。最初に29歳で亡くなつたと聞いてびっくりしました。その若さで牢屋の中で閉じこめられるなんてかわいそうだと思います。

その鶴彬さんが高松生まれだというでおどろきました。鶴彬さんは心から戦争に反対していたからこそ、その川柳を書いたんだと考えました。そんな勇氣がある人なら、もっと長生きしてほしいと思つた。私はこの平成に生まれてよかつたと思つた。これからも日本が平和でいてくれることを願っています。

●「胎内の動き知るころ」心に残る

《桜井 遥輝》ぼくは、最初の文の五七五がよく分かりませんでした。でも宇部先生の鶴彬さんのかいた川柳の説明でなんとなく鶴彬のことが分かつてきました。戦争はぼくも、多分みんなも終わつたと思つていた印象だったけど中国や外国の人にうらまれるのも宇部先生の話でよく分かりやすく勉強にもなりました。鶴彬は昔から勉強をたくさんしてきて、川柳はじょうずでいろいろなものがある戦争のできごと五七五で表している鶴彬さん

は天才だとぼくも思いました。でもその鶴彬さんは29才というわかさで死んでしまつたのはとてもつらいことでした。ぼくは、胎内の、動き知るころ骨がつきというのが心に残りました。お母さんに子が生まれる時にお父さんが死んでしまうという悲しいことは、戦争でするとかなしいので戦争というのは二度とくりかえさないようにしたいと思つていました。

●29年間でたくさんさんの川柳、すごい

《笹山 愛流》私は、鶴彬がかいた「手と足をもいだ丸太にかえし」と言う川柳を聞いて、よくわからない意味ばかりでわからなかつたけど、「もいだ」の意味がわかると、すてきな川柳だと思つた。ほかの川柳もすてきな川柳だと思つた。でも、鶴彬は、29さいでなくなつてしまつたのは、とてもかわいそうに思いました。29年間しか生きていなかつたけれど、とてもすばらしいことを果たせたので、すなかつたけれど、いいことができたので、すごいと思つた。29年間で、たくさんさんの川柳を書けたのも、すごいと思つた。29さいでなくなつたのは、かなしいことだけれど、たくさんさんの川柳をのこしてくれたのは、とてもうれしく思いました。

与謝野晶子は、ロシア軍と戦う弟を思い、戦争に反対する強い気持ちをもつていて、とてもすごいと思つた。

●宇部先生、またお話を聞かせて

《座主 天心》鶴彬さんの川柳は、戦争の毎日を表しているとわかりました。「手と足をもいだ丸太にかえし」のこの文もわかりやすく教えてくれてわかりやすかつたです。

すごくわかりやすく文の内容もわかりやす

く教えてくれました。戦争のことも日本とアメリカのかんけいなどを教えてくれてありがとうございました。また高松小学校にきてお話をきかせてください。

かほく市立大海小学校六年

●「手と足をもいだ…」悲しい川柳

《瀬戸 夢月》私は、鶴彬はとてもすごい人だと思いません。わけは、戦争中なのに、川柳を伝えたからです。本名は喜多一二でした。

中国での戦争で、手や足をうたれた日本の兵士は、ほっておくとくさって、死んでしまうので、うでや足をとられてしまいました。とられた人は、とても苦しんで悲しんだり、悔しい思いをしたと思うので、すぐかわいそうだなと思いました。そして、喜多一二は、たくさんの川柳を残してなくなりました。その作品の中で、「手と足をもいだ丸太にしてかへし」という作品がとても心に残りました。わけは、手と足をもいで丸太にし、日本にかえすという悲しい川柳だからです。これからは、川柳にも、興味をもちたいと思います。

●鶴彬の願いかなった今の日本

《高山 藍士》ぼくは、つる彬のことを聞いて、思ったことは、つる彬がたった29さいで、死んでしまったから、かわいそうだなと思えました。でも、つる彬のお兄さんは、彬が死んでしまったことを、知ったら、い骨を、わざわざ、岩手県の盛岡まで、運んだから、きつと、仲の良いきょうだいだったんだなと思えました。戦争を、やめてほしいというのを、つる彬は、死んでしまうまで、

ずつと、戦争をなくしてほしいということ

を、思い続けたんだなと思えました。戦争に、行った人のことを聞いて、ぼくは、ぞくつとしました。なぜなら、戦争で、うでや、足を、やられた人は、みさかいなく、人の足や、手を、切断していたと聞いたからです。そして、つる彬の親せきの人もいて、ぼくは、びっくりしました。今は、戦争が、日本でないから、つる彬の願いが、かなったんじゃないかなと思いました。

●手と足を取られた人によろげき

《高崎 なごみ》私は、この授業を受けるまで、戦争は、ずっと前に終わったことだと思っていました。でも、鶴彬の作品の「手と足をもいだ丸太にしてかへし」と「胎内の動き知るころ骨がつき」の話を聞いて、とてもおどろきました。「手と足をもいだ丸太にしてかへし」の作品は戦争で、手と足を取られた人がいたということに、とてもしやうげきをうけました。手と足がなく、何もできなくて、何度も死にたいと思っているのは、戦争があつたせいでこんな思いをしている人がいるのを初めて知りました。「胎内の動き知るころ骨がつき」も、全く同じ経験をしている人がいて、びっくりしました。

多くの人が殺され、日本にも大きなひ害をあたえた戦争は、もう二度とくり返さないことにしようと思えました。

●盛岡に鶴彬のお墓があるとは…

《武田 晃征》今日つる彬の川柳の授業がありました。はじめはちよつときんちようして

いてゲームをやつたらきんちようがなくなつたのでよかつたです。一番最初になつた川りゆうがいちばんよかつたです。つる彬はすごい人なんだなと思えました。ぼくは、おは

かがどこにあるかがちよつと気になりました。なぜかという、ぼくは、高松におはかがあると思つたけど話を聞いていたら、盛岡にあるときいてその理由をきいてみると、その理由に、ちよつとはなつとくいきました。こんな話を聞いてあらためてつる彬はすごい人なんだなと思えました。さいごに手づくりの何かをもらいました。すごいなとおもいました。(次号以降にも掲載)

鶴彬生誕記念に誌上川柳大会

和川柳社からのお知らせ

「和」川柳社（金沢市、全日本川柳協会加盟）では、来年の年明けに「鶴彬生誕記念誌上川柳大会」を企画しました。鶴彬の1月1日生誕を記念する初めての試みで、その業績を正しく受け継ぐため、新たな投句を募ります。

- ▽兼題 「暁」2句、雑詠(自由題)3句
- ▽対象 和同人ならびに「はばたき」読者など鶴彬に関心のある方
- ▽締切 2015年12月10日(必着)
- ▽発表 2016年1月1日
- ▽選者 和川柳社会員及び鶴彬を顕彰する会幹事による合選
- ▽送り先 投句者は官製はがきに、兼題句、雑詠の別を記して左記まで郵便またはメールで送って下さい。

〒920-0027 金沢市駅西新町3-17-2
和川柳社事務局長 岩原 茂明
メール zve03156@nifty.com

戦争やテロから

問われること (II)

かほく市高松 浄専寺住職 平野 喜之

2. テロから問われる我われの在り方

(ア) オウム真理教事件から我われは何が問われていたのか

たとえ、国家の動き、自分が所属している何らかの組織の動きに対して、かなりの違和感をもったとしても、「自分一人行動しても、結果にほとんど影響しないだろう。だったら、全体の流れに抗って嫌われるよりも、流れに身を任すほうが得策だ。言われたことをしていればいい。責任は命令したものにありさ」とつい考えてしまうことは、誰にでもあるのではない。国民であることの責任、組織の一員であることの責任から逃れたいという気持ちは誰にでもあるだろう。その気持ちと、強い指導者に依存し判断してもらい、それを感じてついていきたいという依存感情とは深く通底しているように思う。指導者に判断を預ければ、自分の頭で判断し、その結果を引き受けるといふ責任からは逃れられる。それほど、責任を背負うことは重苦しいことなのだ。しかし、本当にそれでいいのだろうか。読者の皆さんは、2012年5月26、27日にNHKで放送された未解決事件ファイル2「オウム真理教 17年目の真実」を見られた

だろうか？ NHKが独自に入手した教団内部の七百本を超す音声テープと元幹部たちの証言をもとに、教団の暴走への軌跡を初めてドラマ化したものであった。さらに死刑判決を受けた元幹部との手紙のやりとりや、警察関係者への徹底取材によるドキュメンタリーで、世界初の化学テロ「サリン事件」がなぜ起きたのか明らかにしようとしたものであった。二日間にわたる長時間のこの番組は、次のような言葉で締めくくられた。

救いの名の元に社会を破壊しようとした麻原彰晃。命じられるままに無差別テロを実行していった若者達。事件から17年、闇の深さは今なお底知れない。悲劇を繰り返さないために何ができるのか。その問いは今も社会に突き付けられている――(太字は平野、以下同じ)

オウム真理教という教団が反社会的教団になつていく要素は麻原教祖の中に最初からあつたにせよ、その引き金となつた出来事は、選挙に敗れる以前にあつた。信者が修行中に亡くなつたことを隠へいしようとして、それをばらす可能性があるオウム脱会希望の信者をリンチによつて殺してしまつたことであつた。そのようにドラマは描かれていた。そして、そういった教団の動きを敏感に察知しながら、教団が少しずつおかしい方向に進みつつあることを感じながらも、結局その教団の動きに流されてしまつた元幹部たちをこのドラマは主人公にしていた。ドラマでは、それを取材した新聞記者に次のように語らせている。

オウムの幹部も信者ももとは普通の人たちです。決して特異な人たちじゃない。つまりその集団の中にあると、誰でも同じようなことをする可能性がある。もちろん、僕もです。大事なのは集団が暴走したとき、それに抗うことができるか。抗えないまでも、ちゃんと立ち止まって考えることができるか。

ここで、実際のオウム信者たちの声を聞いてみよう。オウム真理教元幹部石井久子氏は、意見書(1997年5月16日公判)で次のように言っている。(『オウム裁判と日本人』(降旗賢一著 平凡社新書)より引用。)

(一)は、降旗賢一氏による補い
(教祖のいう教義を自分で批判的心で分析しよう、と思つたとき) 私はこう考えるべきだというグルの指導に慣れ続けてきた自分と、それがなくなると動揺してしまう自分を発見しました。(中略) 私自身の頭と心で判断して下さい、という(弁護人の)アドバイスの中で、他人に強制されないこと、その自由が怖いことがわかつたのです。つまり、選択の自由、思考の自由の怖さは、自分の選択が間違つていてはならないか、そして、その責任は自分が負わなければならないという孤独さでした。絶対的、唯一のものであると信じてそれに向かつてひたすら修行している時は考えなくてもよい怖さでした。多くの人々と生活を共にし、日常の雑務に追われ、子育てに追われていれば考える暇もなく、外から命を狙われている程弾圧されていると信じ、だから

教団内部で結束していた頃には感じたこともない孤独でした。

また、地下鉄サリン事件の実行犯で現在無期懲役刑に服しているオウム真理教元幹部林郁夫の妻である、林りら元被告が裁判所へ提出した上申書には、次のように書かれている。〔オウム裁判と日本人〕より引用)

今よくよく考えてみれば、如何なる屁理屈を積み上げようと、他者を殺害することを是とする信仰があり得るはずがありません。すでにタントラ・ヴァジュラヤーナが唱えられた時点で、私はこのオウム真理教団の「信仰」なるものに疑いを持ち、オウム真理教の信仰と実践を捨て、拒否するべきでした。何か変だなと思つたら、そこで踏み止まり、よく考え、それを拒否し、離脱し、天地の真実の眞の真理に立って独りで生きる勇気を持つべきでした。

オウム真理教だけでなく一般にカルト教団は、一見共同体に見えてもその内実は極端なタテ社会である。カルト教団では意図的に、横のつながりが持たないように横のつながりが断たれている。何か疑問を持つても、信仰上の上司に相談するように仕組まれている。そして、何か物事を決める時も、誰か身近な人に相談して自分で決めるのではなく、上司に相談して上司によって決められたことを(教祖の名のもとに)命令されるのを待つだけである。それは、我われから見れば苦痛のように思えるが、それに慣れてしまうと、石井久子氏や林りら氏の言葉から分かるよう

に、そのほうが楽なのである。そしてむしろ、自分で考えて自分で判断することのほうが怖くなる。

これは、カルト教団にはまってしまった人たちだけの問題だろうか？ 我われは本当にそうでないと言えるだろうか？

(イ) 戦中の亡霊…主従の情^{じょうぎ}

日本脱カルト協会理事、「オウム真理教家族の会」代表をしておられる永岡弘行さんという方がいらつしやる。1995年1月、オウム信者にVXガスをかけられ、生死の境をさまよい、一命を取りとめたものの、後遺症は続き、現在でも通院生活を送つておられる。私は裁判所で何度もお見かけし、一度だけお話をしたこともある。永岡さんは、一人息子が1987年にオウム真理教に入信し、その脱会に尽力され、ご息子が脱会された後も脱会カウンセリングを続けておられる。その永岡さんが、信徒の脱会カウンセリングを続けてきた実感を次のように言つておられる。〔オウム裁判と日本人〕より引用)

長い間、サラリーマン生活をしてきて、係長に昇進する、課長になるというたびに私も研修会を受けさせられた。富士山麓の○経済研究所だとか、ホテルに缶詰になつて、終わつて出てくるときは、今後は会社のために死ぬほど頑張ります、という気になつてしまった。あのときの自分を思い出すと、隔離された部屋で説法を聞き、あの理解できないような人間(麻原)を絶対視する教義を信じたら、飛躍しすぎているか

もしれないが、ひよつとしたら、人を殺す、自分たちの教義を理解しない人間を殺すことは正しい、と解釈してしまう人間も出てくるかもしれない、と思うんです。

永岡さんは、オウム教団の在り方やオウム真理教の信者たちの在り方と、会社の在り方や会社人間であつた自分の在り方と、そんなに違いはないと言われる。この感想は、永岡さんに限つた特殊な感想だろうか？

オウム裁判のほとんどを傍聴されて、その傍聴録を『オウム法廷』というシリーズで公開して下さつた元朝日新聞編集委員である降旗賢一氏(1945年生)は、次のように言われている。(機関誌『悲』12号「オウム裁判を取材し続けて」より)

教団のこうした実態が明らかになつていくと、年配の読者からは、その社会は、旧軍隊の兵士たちと同じだという感想が寄せられるようになった。上官の命令は天皇の命令、と絶対服従を強いられて、戦場で戦わされた兵隊たち。私自身にはその経験はないが、戦中の亡霊は、現代のこの教団の中で濃縮された形で蘇り、醸成され、増殖していったのだ。

しかしそうして次第に分かつてきたこの教団の人々の生き方は、私たちとはまったく別世界のことだろうか、と私は思う。全体の利益を至上のものとし、「個」を減して尽くす。それは、戦前に限らず、戦後の高度成長を支えてきた「会社人間」「企業戦士」には当たり前の考え方だったし、今だって、それから完全に自由な人はどれだ

けるだろうか。

生きづらさと、自分たちに未来はないという閉塞感。戦後の日本社会は、戦争の時代と隔絶した民主主義社会になったと思いついでいたのは間違っていて、私たちは実は戦前をそのまま引きずって、ともするとそこにまた戻ろうとしているのではないか。それが、オウム裁判を通じて、私が実感して描くこの社会の一つの「自画像」である。

もう少し降旗賢一氏の文章を紹介したい。以下は、『オウム裁判と日本人』から私が大事だと思ったところを抜き書きしたものをまとめたものである。

1960年の初めから、大企業の新人社員研修に自衛隊への入隊や禅寺での座禅を採り入れることが流行し始めたことについて、時の経済学者大河内一男は、戦前の『主従の情宜』の「亡霊」が戦後社会に息を吹き返してきたのではないかと警告した（1963年4月29日 朝日新聞「日本の動き 世界の動き」）。大河内はその中で、「昔から日本の使用者は、とかく労使関係を『主従の情宜』などで律しようとし、身分的な序列の中に人間を押し込めて、そこで指導統率の実をあげようとした」が、それを復活させようとするのか、と安直にそういう手段を取る経営者を批判している。しかし、思えばそのころから始まった高度経済成長、日本企業を特徴づけたのは、皮肉なことに、その社員教育に象徴される、指揮系統と服従との「縦」の身分関係

を最も重視する軍隊的な序列の方だった。「競争社会に生き残るには、軍隊のように統制の取れた組織が必要だ」「そのために会社を中心とした意識に育てなければならぬ」。

そう考えることを、仕事のため、生活のためだから、と容認していくにつれて、人々の間からは、あの「戦争の時代」に軍隊組織の最末端に取り込まれた庶民がどのような辛酸をなめたか、という記憶も、それが復活することへの抵抗感も警戒心も、次第に薄れていったように思える。

「亡霊」は、「戦前」を清算しきれずに、基本的なシステムを「会社」の中に温存したまま、経済成長に邁進してきた日本社会そのものになりつつあり、私たちが自覚しない間に再び次第に膨張していた。それが、高度成長にほころびが出た時期、オウム真理教という組織の中で、異様なほどの繁殖をし、一気に暴発したのではないか。

組織に忠誠を誓うことのみが美德と思いつまされ、実は人をただの歯車のようにしか扱っていないこの企業主義社会の現実。もとはと言えば、それに激しく「ノー」を言っただけで、教団に飛び込んだはずの若者たちは、最もしてはいけぬ選択、つまり、よく考えもせずに権威の前にひれ伏して、「主従の情宜」の中に身をゆだね、教団の外の人々を冒瀆し、結果、自分たち自身をも崩壊させる方を選んでいったのだ。

私は戦前と戦後を一貫しているのは主権国家という国家観と富国強兵という国策だと

言ったが、一貫していたのはそれだけでなく、富国強兵を目指す主権国家の中で、「主従の情宜」の中に身をゆだねる我われ国民の生き方だった。それを如実に表しているのが、若きオウム信者たちの、麻原教祖に盲信している姿だったのである。

教祖や幹部たちの指示で犯罪を犯してしま、のちにオウム真理教を脱会した元信者たちの手記を読んでいると、教祖や幹部たちが飴と鞭を使い分けて信者をうまくコントロールしていたことが分かる。そのやり方は戦中の日本における統治者のやり方にそっくりである。国策に対して従順であれば褒める（たとえば、名誉の戦死として靖国神社に神として祀る）が、国策に対して批判的であれば、鶴彬がそうであったように「非国民」として裏切り者扱いする。国民は褒められることの喜びと、非国民として軽蔑され排除されることの恐怖を何度も味わっているうちに、自身自身の頭で物事の是非を考えて判断することよりも、国家のいいなりになることを自ら選ぶようになってしまふ。戦中の日本人の在り方とオウム信者の在り方はよく似ているのだ。

悲しいかな、我われは、褒められることを求め、見捨てられることを恐れるという性質を持っていて、統治者はそういう人間の性質をうまく利用してコントロールしようとする。そのことをよくよく心得ておかなければならないだろう。

(ウ) テロを未然に防ぐには

アメリカのような世界最大の軍事国家でも、テロを未然に防ぐことが難しいことは、

2001年9月11日のアメリカ同時多発テロ事件(以下9・11テロと略す)で証明済みだろう。地下鉄サリン事件でも、かなり早い段階で警察庁や警視庁はオウム教団がサリンを生産しているという情報をつかんでいたが、結局は防げなかったのである。

元自衛隊員で、ホーク地对空ミサイル部隊に所属しておられた泥憲(どろのり)和(わ)さんは、街頭演説(2014年6月30日)で次のように訴えた。

みなさん、軍隊はテロを防げないんです。世界最強の米軍が、テロを防げないんですよ。自衛隊が海外の戦争に参加して、日本がテロに狙われたらどうしますか。(中略)自衛隊はテロから市民を守れないんです。テロの被害を受けて、そのときになって、自衛隊が戦争に行っているからだと逆恨みされたんではたまりませんよ。だから私は集団的自衛権には絶対に反対なんです。

アメリカは、9・11テロを受けて、対テロ戦争ということ掲げ、イラクやアフガニスタンで対テロ作戦を展開したが、その結果、巨大なIS(イスラム国)というテロ国家を生み出してしまった。オウム教団とISとは規模がまったく違うから比較にはならないが、オウムを解体してもオウムの後継団体であるアレフに入信する若者は年々増える一方であり、麻原教祖絶対帰依という信仰も地下鉄サリン事件を起こした当時に戻りつつあると言われている。対テロ戦争、テロリスト撲滅作戦によってテロの脅威がなくなることはないのだ。では我われは、テロの脅威とどのように向き合えばいいのだろうか。

残念ながら、テロ集団が一度出来てしまうと、テロを未然に防ぐ方法はないと思う。しかし、もし出来ることがあるとすれば、なぜその集団に若者が入るのかを研究するしかない。私は、オウム真理教元信者の井上嘉浩死刑囚がたまたま高校の後輩であり、高校時代の恩師が彼と同じだったこともあって、その恩師の勧めで文通や面会をするようになり、なぜオウムに魅かれたのか、なぜ今でもアレフに信者が入信しようとするのかを現在彼に学んでいる。

テロを指導するような人たちは、どんな豊かな社会であつてもいつの時代にも現れると私は思う。しかし、決して指導者たち自身は自爆テロなどしない。するのは、マインドコントロールされた部下、信者たちである。テロ指導者たちが出現しないようにすることは不可能だとしても、彼らに協力するような若者を作らないように努力することはまだ可能のような気がする。だから、テロ集団を叩き潰すよりも、なぜそういう集団に若者たちが入っていくのか、若者たちの内面を知るためにも、集団に属するものたちと、困難ではあるが対話していくしかないと思うのである。そして運よく、ある何かを得るために集団に入っていくことが分かったら、そんな危険な集団に入らなくてもその何かを得られることを説明して、その集団を抜け出すように導く。今のところ、そういう方法しか思い浮かばない。この拙文ではオウムの問題にこれ以上は立ち入らないが、テロ国家、大規模なテロリストたちの集団が生まれて来るという問題を考えるうえで重要な「積極的平和」について述べることにする。

(エ) 積極的平和とは？

積極的平和という言葉は、最近では安倍首相を通して耳にする機会が多くなったが、私の知る所では「平和学」から生まれた概念である。1964年に国際平和学会が設立されたのを、皆さんはご存じだろうか？ どういう経緯でその学会が設立されたかという、北の学者と南の学者との出会いである。その学会では、北の先進国の学者たちは平和を「戦争がない状態」とした。ところが、インドのサガタ・ダスグプタという学者が「第三世界、途上国にとつての平和とは何か」を発表し、「途上国では戦争がなくても平和はない」と言った。

「北側のあなた方にとつては、戦争がなければ平和でしょう。だけど南側のわれわれにとつては戦争がなくても平和ではない。戦争がなければ平和だというのは、西洋の考え、欧米や日本のような先進国の考えだ。ところが南では戦争がなくても平和ではないのだ」という訴えをした。

そのことを機縁として、ヨハン・ガルトウングというノルウェーの学者によって、消極的平和と積極的平和という区別が生まれた。消極的平和とは、戦争のない状態、直接的(物理的)暴力のない状態であり、積極的平和とは「構造的暴力」のない状態である。構造的暴力の主体は匿名ではないので、逮捕できない。ガルトウング氏は言う。

極度の貧困、飢餓、無秩序、政治的抑圧、無政府状態などのために無数の人が死んでいく。あるいは自己実現の機会を奪われた

まま人生を終わらざるを得ない途上国の現実、構造的暴力の典型だと言うことができる。構造的暴力はあまりにも日常的であるため、大規模な破壊が行われる戦争、あるいは流血をとまなうテロや暴力団抗争、多数の人を殺したサリン事件と違い、見えにくくニュースになることさえ稀である。

では構造的暴力は、先進国にはないだろうか。そんなことはない。たとえば、日本にもある。ただ見えないだけである。広島修道大学名誉教授の岡本三夫氏は、長崎平和研究講座第1回「平和とは何か、平和学入門」(2000年4月21日)で、直接的暴力と構造的暴力の違いを述べながら、次のように言っておられる。

男性が全権を掌握している家父長制社会において女性が無権利状態におかれ、自己実現の可能性を奪われているが、これは典型的な構造的暴力である。医療ミスは直接的暴力だが、医師の権威が絶対視され、患者が無権利状態に置かれている状況も構造的暴力として機能している。女子小学生が駐留の外国人兵によって暴行されればそれは直接的暴力だが、軍事基地が存在するということが自体は構造的暴力である。公共の場での喫煙は副流煙によって周囲にいる者の健康を害する可能性が大きい直接的暴力だが、たばこが合法的な商品として販売されている状況は構造的暴力として機能している。

もちろん、心の空しさを埋めるためにテロ

集団に入る若者たちもいるし、学歴が高く収入も多く社会的地位にも恵まれた者たちでも、オウム真理教に入信する者はいら(どれも恵まれた環境にいても空しい、その空しさをなんとかしたいというのが、若き日のお釈迦様の出家の動機だった)。しかし、そういう場合を別にすると、先ほど紹介したガルトウング氏が言う典型的な構造的暴力である「極度の貧困、飢餓、無秩序、政治的抑圧、無政府状態」「自己実現の機会を奪われたまま人生を終わらざるを得ない途上国の現実」から、テロ集団に入る若者たちが圧倒的に多いのも事実である。日本が本当に安全で平和な国を目指すならば、アメリカの対テロ戦争を支持して協力するのではなく、世界の国民が構造的暴力から解放されるような努力をすべきだと思う。そもそも、それが現行憲法の前文で確認された日本国民の努力目標なのだ。今一度、憲法の前文を確認しよう(以下、現行憲法の前文)。

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和



コウリヤンの穂 (鶴彬資料館)

を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようとする努力を国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

(次号へ続く)

お知らせ 本稿は3回連載の予定ですが、次回掲載分を含め全文をまとめた冊子を発行しました。ご希望の方は左記いずれかへお申し込みください。

〒929・1515 かほく市高松キ5 (送料込み300円)

鶴彬を顕彰する会事務局

〒929・1515 かほく市高松ツ66

浄専寺 平野喜之

(F) 076・281・0546

会員募集 (随時受付)

年会費 2,000円 (団体3,000円)

「鶴彬通信 はばたき」

購読料 1,000円/年

発行 鶴彬を顕彰する会

事務局 〒929・1215 石川県かほく市高松 キ5 (小山 広助 気付)

TEL・FAX 076-281-1201

E-mail: turuakira@yahoo.co.jp

ホームページ: http://tsuruakira.jp/